阿賀野市租税教育推進協議会長賞

「当たり前」から「大切へ」

阿賀野市立 笹神中学校　３年　佐久間　愛　心　さん

私の『税』への認識は、「払うのが当たり前のお金」というもので、何に使われているのかにも興味はありませんでした。しかし、この文章を執筆する中で、税について理解を深めることができました。

私が興味をもったのは、私も支払ったことのある消費税です。消費税は日常生活で常に支払っている税金の一つです。買い物をするたびに支払いますが、これは単なる負担ではなく、私たちの知らないところで社会を支える重要な役割を果たしています。現在の消費税率十%のうち、国に入る分は社会保障や少子化対策に、地方に入る分は各自治体の社会施策に充てられています。消費税が上がることには賛否両論ありますが、その理由や使い道を知ることで、税への理解が深まりました。

最近、税金の存在を身近に感じた出来事がありました。先日、私が乗っていた車が事故に遭い、パトカーを呼んで警察の方に対応してもらいました。その出動や活動費は、私たちが納めている税金で賄われています。また、少し前には火事を見かけ、消防車が出動する場面もありました。消防士による消火活動や救急車との連携によって、大きな被害を防ぐことができました。もし税金がなければ、出動のたびに高額な費用が必要となり、迅速な対応は難しくなるでしょう。このことから、安心して暮らせる社会は税金によって支えられているのだと実感しました。

一方で、税金の使い道には改善してほしい点もあります。私の市には、設備が新しく充実した学校と、古く狭く感じる学校があります。また、家の前の道路には傷んでいる場所もあります。同じように税金を納めているのに差があることは疑問を感じています。限られた税金だからこそ、より多くの人が安心して暮らせるよう、必要な場所へ公平に使われることが大切だと思います。

これから私も大人になり、税金を納める立場になります。「納めるのが当たり前」ではなく、「社会を支えるための大切なお金」として捉え、社会の一員として誰かが必要としているときに支えられる社会づくりに貢献していきたいです。